

1. こんにちは。にほんご きょうし 日本語 教師のまみです。

안녕하세요. 일본어 교사 마미입니다.

2. みな す ばしょ いま てんき 皆さんが住んでいる場所は, 今, どんな天気でしょうか。

여러분이 살고 있는 곳은 지금 날씨가 어떤가요?

3. かんこく にほん きせつ わ くに 韓国も日本も, 季節がはっきり分かれている国ですよ。

한국도 일본도 계절이 뚜렷하게 나뉘는 나라잖아요.

4. わたし はなし そうそう おも だから, 私の話は, きっと想像しやすいんじゃないかなと思っています。

그래서 제 이야기는 아마 쉽게 상상할 수 있지 않을까 싶어요.

5. きょう にほん しき たの かた はな 今日のエピソードでは, 日本の四季と, その楽しみ方について, ゆっくりお話ししてみたいと思います。

오늘 에피소드에서는 일본의 사계절과 그 계절을 즐기는 방법에 대해 천천히 이야기해 보려고 해요.

6. しき はる なつ あき ふゆ 四季というのは, 春, 夏, 秋, 冬のことですね。

사계절이라는 건 봄, 여름, 가을, 겨울을 말하죠.

7. にほんじん よつ きせつ たいせつ 日本人は, この四つの季節を, とても大切にしています。

일본 사람들은 이 네 계절을 아주 소중하게 여겨요.

8. じつ にほんご ことば にほん しき 実は, 日本語には, こんな言葉があります。 “日本には四季がある”。

사실 일본어에는 이런 말이 있어요. "일본에는 사계절이 있다."

9. ことば き この言葉, 聞いたことがありますか?

이 말, 들어 본 적 있으세요?

10. せかい くに きせつ くに 世界には, たくさんの国があって, もちろん, 季節がある国はたくさんあります。

세계에는 수많은 나라가 있고, 물론 계절이 있는 나라도 많이 있죠.

11. にほんじん しき とくべつ はな でも日本人は, なぜか, “四季があること”を, 特別なことのように話すんですよ。

그런데 일본 사람들은 왠지 "사계절이 있다는 것"을 특별한 일처럼 이야기하곤 해요.

12. わたし こ ころ がっこう なんと き 私 も子どもの頃から, 学校で何度も聞いてきました。

저도 어릴 때부터 학교에서 몇 번이나 들어 왔어요.

13. きせつ へんか にほんじん こころ ふか かか それくらい, 季節の変化は, 日本人の心に, 深く関わっているんです。

그만큼 계절의 변화는 일본 사람들의 마음과 깊이 연결되어 있는 거예요.

14. では、ここから、一つずつ季節を見ていきましょう。まずは、春です。

그럼 이제부터 계절을 하나씩 살펴볼게요. 먼저 봄이에요.

15. 日本の春と言えば、やっぱり“お花見”ですね。お花見,知っていますか？

일본의 봄이라고 하면 역시 "오하나미(꽃놀이)"죠. 오하나미, 알고 계세요?

16. 桜の花を見ながら、みんなで楽しく過ごすことを言います。

벚꽃을 보면서 다 같이 즐겁게 시간을 보내는 걸 말해요.

17. 桜は、日本を代表する花です。

벚꽃은 일본을 대표하는 꽃이에요.

18. 三月の終わりから、四月のはじめにかけて、日本中が、ピンク色に染まります。

3월 말부터 4월 초에 걸쳐 일본 전체가 분홍빛으로 물들어요.

19. “染まる”というのは、色がいっぱいに広がる、という意味です。

"물들다(소마루)"라는 건 색이 가득 퍼진다는 뜻이에요.

20. 公園や川のそばに桜が咲くと、人々は、その下にシートを敷いて、お弁当を食べたり、お酒を飲んだりします。

공원이나 강가에 벚꽃이 피면 사람들은 그 아래에 돛자리를 깔고 도시락을 먹거나 술을 마시기도 해요.

21. ここで、面白い豆知識を一つ、お話しします。

여기서 재미있는 상식 하나를 알려 드릴게요.

22. 桜が咲いている期間は、実は、とても短いんです。

벚꽃이 피어 있는 기간은 사실 아주 짧아요.

23. だいたい、一週間から十日くらいで、散ってしまいます。

대략 일주일에서 열흘 정도면 저 버려요.

24. “散る”というのは、花が落ちる、という意味ですね。

"지다(치루)"라는 건 꽃이 떨어진다는 뜻이에요.

25. すぐに散ってしまうからこそ、日本人は、桜を見て、“美しいなあ”と感じるのかもしれない。

금방 저 버리기 때문에 오히려 일본 사람들은 벚꽃을 보며 "아름답다"고 느끼는 건지도 몰라요.

26. 短い命だからこそ、美しく感じられます。

짧은 생명이기에 더 아름답게 느껴지는 거죠.

27. <sup>かん かた にほん ぶんか りかい</sup>この感じ方は、日本の文化を理解するうえで、とても <sup>だいじ</sup>大事なポイントだ <sup>おも</sup>と思います。  
[이런 감성은 일본 문화를 이해하는 데 있어서 아주 중요한 포인트라고 생각해요.](#)
28. <sup>はる た もの しょうかい</sup>春の食べ物も、紹介 <sup>はる</sup>しますね。春には、“いちご”や、“<sup>たけのこ</sup>筍”がおいしくなります。  
[봄 음식도 소개해 드릴게요. 봄에는 "딸기"나 "죽순"이 맛있어져요.](#)
29. <sup>たけのこ</sup>筍 <sup>たけ あか</sup>というのは、竹の赤ちゃんです。  
[죽순이라는 건 대나무의 아기예요.](#)
30. <sup>つち なか で</sup>土の中から出てきたばかりの、<sup>ぶぶん た</sup>やわらかい部分を食べるんですよ。  
[땅속에서 막 올라온 부드러운 부분을 먹는 거예요.](#)
31. <sup>すこ にが</sup>少し苦みがあって、<sup>はる あじ</sup>春らしい味がします。それから、<sup>わたし たいけんだん ひと しょうかい</sup>私の体験談を一つ、紹介 <sup>しま</sup>しますね。  
[살짝 씹싸름해서 봄다운 맛이 나요. 그리고 제 경험담을 하나 소개할게요.](#)
32. <sup>がくせい</sup>学生のころ、<sup>ともだち はなみ い</sup>友達とお花見に行ったときのことで。  
[학생 때 친구들과 꽃놀이를 갔을 때의 일이에요.](#)
33. <sup>あさ ばしょ と おも はやお こうえん い</sup>朝から場所を取ろうと思って、早起きして公園に行きました。  
[아침부터 자리를 잡으려고 일찍 일어나서 공원에 갔어요.](#)
34. そうしたら、もう、<sup>ひと</sup>たくさんの人が、<sup>し ま</sup>シートを敷いて待っていたんです。  
[그랬더니 벌써 많은 사람들이 돛자리를 깔고 기다리고 있었어요.](#)
35. <sup>にんき ばしょ あさはや ばしょと</sup>人気の場所だと、朝 <sup>せき すわ</sup>早くから場所取りをしないと、いい席に座れないんですね。  
[인기 있는 장소에서는 아침 일찍부터 자리를 맡아 두지 않으면 좋은 자리에 앉을 수가 없거든요.](#)
36. <sup>わたし にほんじん さくら す</sup>このときに、私は、日本人が、どれだけ桜を好きなのか、<sup>かん</sup>あらためて感じました。  
[그때 저는 일본 사람들이 벚꽃을 얼마나 좋아하는지 새삼 느꼈어요.](#)
37. <sup>はなみ にほんじん とくべつ ぎょうじ</sup>それくらい、お花見は、日本人にとって、特別な行事なんですよ。  
[그만큼 꽃놀이는 일본 사람들에게 특별한 행사예요.](#)
38. <sup>つぎ なつ にほん なつ しょうじき い</sup>さて、次は夏です。日本の夏は、正直 <sup>あつ</sup>に言うと、すごく暑いです。  
[자, 다음은 여름이에요. 일본의 여름은 솔직히 말하면 엄청 더워요.](#)
39. <sup>しっけ おお</sup>そして、湿気が多いです。湿気 <sup>しっけ</sup>というのは、<sup>くうき なか すいぶん</sup>空気の中の水分のことで <sup>すね</sup>すね。  
[그리고 습기가 많아요. 습기라는 건 공기 중의 수분을 말하죠.](#)

40. ジメジメして、ベタベタする<sup>かん</sup>感じです。

눅눅하고 끈적끈적한 느낌이에요.

41. <sup>かんこく</sup> 韓国の<sup>なつ</sup> 夏も<sup>あつ</sup> 暑いと思いますが、<sup>にほん</sup> 日本<sup>なつ</sup> の<sup>なつ</sup> 夏も、<sup>たいへん</sup> なかなか大変なんですよ。

한국의 여름도 덥겠지만 일본의 여름도 꽤 힘들답니다.

42. <sup>ひと</sup> ここで、もう一つ、<sup>はな</sup> お話ししたいことがあります。

여기서 하나 더 이야기하고 싶은 게 있어요.

43. <sup>なつ</sup> 夏が来る<sup>く</sup> 前の、<sup>まえ</sup> 六月<sup>ろくがつ</sup> ごろに、<sup>つゆ</sup> “梅雨”<sup>じき</sup> という時期があります。

여름이 오기 전, 6월쯤에 "쓰유(장마)"라는 시기가 있어요.

44. <sup>つゆ</sup> 梅雨<sup>あめ</sup> というのは、<sup>ふ</sup> 雨が<sup>つづ</sup> たくさん<sup>きかん</sup> 降り続く期間のことです。

쓰유라는 건 비가 계속 많이 내리는 기간을 말해요.

45. <sup>まいにち</sup> 毎<sup>あめ</sup> 日のように<sup>ふ</sup> 雨が<sup>ひ</sup> 降<sup>つつ</sup> って、<sup>ひ</sup> じめじめした<sup>ひ</sup> 日が続きます。

거의 매일 비가 내려서 눅눅한 날이 이어져요.

46. “<sup>つゆ</sup> 梅雨”<sup>か</sup> と書<sup>よ</sup> いて、“<sup>つゆ</sup> 梅雨”<sup>かんじ</sup> と読<sup>うめ</sup> むんですよ。漢<sup>あめ</sup> 字は“梅<sup>かんじ</sup> の<sup>うめ</sup> 雨<sup>あめ</sup> ”<sup>かんじ</sup> ですね。

"梅雨"라고 쓰고 "쓰유"라고 읽어요. 한자로는 "매실의 비"죠.

47. <sup>うめ</sup> ちょうど<sup>み</sup> 梅<sup>そだ</sup> の<sup>じき</sup> 実<sup>あめ</sup> が<sup>おお</sup> 育<sup>よ</sup> つ<sup>よ</sup> 時期<sup>よ</sup> に、<sup>あめ</sup> 雨<sup>よ</sup> が<sup>よ</sup> 多<sup>よ</sup> い<sup>よ</sup> から、<sup>よ</sup> こう呼<sup>よ</sup> ばれて<sup>よ</sup> いる<sup>よ</sup> んです。

마침 매실이 익어 가는 시기에 비가 많이 와서 이렇게 불리는 거예요.

48. <sup>ふしぎ</sup> ちょっ<sup>よ</sup> と不思議<sup>かた</sup> な<sup>おぼ</sup> 読み<sup>おもしろ</sup> 方<sup>おも</sup> なので、<sup>おも</sup> 覚<sup>おも</sup> えて<sup>おも</sup> おく<sup>おも</sup> と面白<sup>おも</sup> い<sup>おも</sup> と思います。

좀 신기한 읽는 법이라서 기억해 두면 재미있을 거예요.

49. <sup>あつ</sup> でも、暑<sup>なつ</sup> い<sup>たの</sup> だけでは<sup>なつ</sup> あり<sup>たの</sup> ませ<sup>なつ</sup> せん。夏<sup>なつ</sup> には、<sup>たの</sup> 楽<sup>なつ</sup> しい<sup>たの</sup> こと<sup>なつ</sup> が<sup>たの</sup> たく<sup>なつ</sup> さん<sup>なつ</sup> あり<sup>なつ</sup> ます。

하지만 덥기만 한 건 아니에요. 여름에는 즐거운 일이 많이 있어요.

50. <sup>だいひょう</sup> その<sup>なつまつ</sup> 代<sup>なつまつ</sup> 表<sup>なつまつ</sup> が、“<sup>なつまつ</sup> 夏<sup>なつまつ</sup> 祭<sup>なつまつ</sup> り”<sup>なつまつ</sup> です。夏<sup>なつまつ</sup> 祭<sup>なつまつ</sup> り<sup>なつまつ</sup> では、<sup>なつまつ</sup> 全<sup>なつまつ</sup> 体<sup>なつまつ</sup> “<sup>なつまつ</sup> 浴<sup>なつまつ</sup> 衣<sup>なつまつ</sup> ”<sup>なつまつ</sup> を<sup>なつまつ</sup> 着<sup>なつまつ</sup> ます。

그 대표가 바로 "나쓰마쓰리(여름 축제)"예요. 여름 축제에서는 다들 "유카타"를 입어요.

51. <sup>ゆかた</sup> 浴<sup>なつよう</sup> 衣<sup>なつよう</sup> は、<sup>なつよう</sup> 夏<sup>なつよう</sup> 用<sup>なつよう</sup> の、<sup>なつよう</sup> う<sup>なつよう</sup> す<sup>なつよう</sup> くて<sup>なつよう</sup> 軽<sup>なつよう</sup> い<sup>なつよう</sup> 着<sup>なつよう</sup> 物<sup>なつよう</sup> です。そして、<sup>なつよう</sup> 屋<sup>なつよう</sup> 台<sup>なつよう</sup> が<sup>なつよう</sup> 並<sup>なつよう</sup> び<sup>なつよう</sup> ます。

유카타는 여름용의 얇고 가벼운 기모노예요. 그리고 노점들이 즐지어 서요.

52. <sup>やたい</sup> 屋<sup>みち</sup> 台<sup>で</sup> というのは、<sup>みち</sup> 道<sup>みち</sup> に<sup>みち</sup> 出<sup>みち</sup> ている、<sup>みち</sup> 小<sup>みち</sup> さ<sup>みち</sup> な<sup>みち</sup> お<sup>みち</sup> 店<sup>みち</sup> の<sup>みち</sup> こと<sup>みち</sup> です。

노점(야타이)이라는 건 길가에 나와 있는 작은 가게를 말해요.

53. たこ焼きや、かき氷や、りんご飴などを売っています。夜になると、花火も上がります。

다코야키, 빙수, 사과 사탕 같은 걸 팔아요. 밤이 되면 불꽃도 쏘아 올려요.

54. 日本の花火大会は、本当にきれいですよ。何千発もの花火が、夜の空に咲きます。

일본의 불꽃놀이 축제는 정말 예뻐요. 수천 발의 불꽃이 밤하늘에 피어나요.

55. 皆さんは、浴衣を着たことがありますか？

여러분은 유카타를 입어 본 적이 있나요?

56. もし日本の夏に来ることがあったら、ぜひ一度、浴衣を着て、夏祭りに行ってみたいです。

혹시 여름에 일본에 올 일이 있다면 꼭 한 번 유카타를 입고 여름 축제에 가 보셨으면 좋겠어요.

57. きっと、忘れられない思い出になります。

분명 잊지 못할 추억이 될 거예요.

58. 夏の食べ物といえば、さっき言ったかき氷や、冷たいそうめんですね。

여름 음식이라고 하면 아까 말한 빙수나 차가운 소면이죠.

59. そうめんは、細い麺を、冷たくして食べる料理です。

소면은 가느다란 면을 차갑게 해서 먹는 요리예요.

60. 暑い日に食べると、すーっと体が涼しくなります。続いて、秋です。

더운 날 먹으면 몸이 스윽 시원해져요. 이어서 가을이에요.

61. 私は、四つの季節の中で、秋が一番好きです。

저는 네 계절 중에서 가을을 제일 좋아해요.

62. なぜかという、暑くもなく、寒くもなく、とても過ごしやすいからです。

왜냐하면 덥지도 않고 춥지도 않아서 아주 지내기 좋기 때문이에요.

63. そして、秋は、食べ物がおいしい季節でもあります。日本には、こんな言葉があります。

그리고 가을은 음식이 맛있는 계절이기도 해요. 일본에는 이런 말이 있어요.

64. “食欲の秋”。

"식욕의 가을."

65. <sup>あき</sup>秋になると, <sup>しょくよく</sup>食欲が<sup>ま</sup>増す, つまり, <sup>た</sup>たくさん<sup>いみ</sup>食べたくなる, という意味です。

가을이 되면 식욕이 늘어난다, 즉, 많이 먹고 싶어진다는 뜻이에요.

66. <sup>くり</sup>さんまや, 栗や, さつまいもや, <sup>き</sup>きのこがあります。

콩치, 밤, 고구마, 버섯 같은 게 있어요.

67. <sup>ほんとう</sup>おいしいものが, 本<sup>ほん</sup>当<sup>とう</sup>にたくさんあります。

맛있는 게 정말 많아요.

68. <sup>わたし</sup>私も <sup>まいとしあき</sup>毎年, 秋になると, <sup>た</sup>ついつい<sup>た</sup>食べすぎてしまいます。

저도 매년 가을이 되면 나도 모르게 과식하게 돼요.

69. <sup>あき</sup>そして, 秋の<sup>ひと</sup>もう一つの<sup>たの</sup>楽しみが, <sup>こうよう</sup>“紅葉”です。

그리고 가을의 또 하나의 즐거움이 "단풍"이에요.

70. <sup>こうよう</sup>紅葉<sup>き</sup>というの<sup>は</sup>は, <sup>あか</sup>木<sup>きいろ</sup>の葉<sup>か</sup>っぱが, 赤<sup>あか</sup>や<sup>きいろ</sup>黄色<sup>か</sup>に変わることです。

단풍이라는 건 나뭇잎이 빨간색이나 노란색으로 바뀌는 걸 말해요.

71. <sup>はる</sup>春<sup>さくら</sup>の桜<sup>いろ</sup>が<sup>あき</sup>ピンク色<sup>こうよう</sup>なら, 秋<sup>あか</sup>の紅葉<sup>きいろ</sup>は, 赤<sup>あか</sup>と<sup>きいろ</sup>黄色<sup>か</sup>です。

봄의 벚꽃이 분홍색이라면 가을의 단풍은 빨강과 노랑이에요.

72. <sup>やま</sup>山<sup>も</sup>が, <sup>ま</sup>まるで<sup>か</sup>燃<sup>も</sup>えているように, 真<sup>ま</sup>っ<sup>か</sup>赤<sup>あか</sup>になります。

산이 마치 불타는 것처럼 새빨강게 물들어요.

73. <sup>み</sup>これ<sup>と</sup>を見る<sup>お</sup>ために, <sup>で</sup>わざわざ<sup>ひと</sup>遠<sup>おお</sup>くまで<sup>お</sup>出<sup>お</sup>かける<sup>お</sup>人も<sup>お</sup>多<sup>お</sup>い<sup>お</sup>んです<sup>お</sup>よ。

이걸 보려고 일부러 먼 곳까지 가는 사람도 많아요.

74. <sup>きょうと</sup>京都<sup>こうよう</sup>の紅葉<sup>とく</sup>は, <sup>ゆうめい</sup>特<sup>せかいじゅう</sup>に有<sup>ひと</sup>名<sup>あつ</sup>で, 世<sup>あつ</sup>界<sup>あつ</sup>中<sup>あつ</sup>から<sup>あつ</sup>人<sup>あつ</sup>が<sup>あつ</sup>集<sup>あつ</sup>まります。

교토의 단풍은 특히 유명해서 전 세계에서 사람들이 모여들어요.

75. <sup>さくら</sup>桜<sup>はる</sup>は<sup>こうよう</sup>春<sup>あき</sup>に, 紅<sup>たの</sup>葉<sup>たの</sup>は<sup>たの</sup>秋<sup>たの</sup>に<sup>たの</sup>楽<sup>たの</sup>しみ<sup>たの</sup>ます。

벚꽃은 봄에, 단풍은 가을에 즐기죠.

76. <sup>にほんじん</sup>日本人<sup>きせつ</sup>は, 季<sup>しぜん</sup>節<sup>み</sup>ごと<sup>で</sup>に, 自<sup>す</sup>然<sup>す</sup>を<sup>す</sup>見<sup>す</sup>に<sup>す</sup>出<sup>す</sup>かける<sup>す</sup>のが<sup>す</sup>好<sup>す</sup>き<sup>す</sup>なん<sup>す</sup>です<sup>す</sup>ね。

일본 사람들은 계절마다 자연을 보러 나가는 걸 좋아하는 거예요.

77. <sup>さいご</sup>最後<sup>ふゆ</sup>は, 冬<sup>にほん</sup>です。日<sup>ふゆ</sup>本<sup>ちいき</sup>の冬<sup>ちが</sup>は, 地<sup>ちが</sup>域<sup>ちが</sup>によ<sup>ちが</sup>って, 可<sup>ちが</sup>なり<sup>ちが</sup>違<sup>ちが</sup>います。

마지막은 겨울이에요. 일본의 겨울은 지역에 따라 꽤 달라요.

78. <sup>とうきょう</sup>東京<sup>ばしょ</sup>の<sup>ゆき</sup>よう<sup>ふ</sup>な場<sup>ふ</sup>所<sup>ふ</sup>では, 雪<sup>ふ</sup>は<sup>ふ</sup>あ<sup>ふ</sup>まり<sup>ふ</sup>降<sup>ふ</sup>り<sup>ふ</sup>ませ<sup>ふ</sup>ん。

도쿄 같은 곳에서는 눈이 별로 안 내려요.

79. <sup>きた</sup>でも, <sup>にほんかいがわ</sup>北の<sup>ちいき</sup>ほうや, <sup>ゆき</sup>日本海 <sup>ふ</sup>側の地域では, 雪がたくさん降ります。

하지만 북쪽이나 동해(일본해) 쪽 지역에서는 눈이 많이 내려요.

80. <sup>にほんかいがわ</sup>“日本海側”<sup>にほん</sup>이라는<sup>にしがわうみ</sup>のは, <sup>めん</sup>日本の<sup>ちいき</sup>西側, <sup>おも</sup>海に面した地域の<sup>おも</sup>ことです。

"니혼카이가와(일본해 쪽)"라는 건 일본의 서쪽, 바다에 면한 지역을 말해요.

81. <sup>やね</sup>ここでは, <sup>み</sup>屋根が見えなくなる<sup>ゆき</sup>くらい, <sup>つ</sup>雪が積<sup>つ</sup>もる<sup>つ</sup>こともあります。

이곳에서는 지붕이 안 보일 정도로 눈이 쌓이기도 해요.

82. <sup>ゆき</sup>雪<sup>み</sup>を見た<sup>ひと</sup>ことがない<sup>かんどうてき</sup>人<sup>おも</sup>にとっては, <sup>かんどうてき</sup>きっと感動<sup>おも</sup>的<sup>おも</sup>だ<sup>おも</sup>と思います。

눈을 본 적이 없는 사람에게는 분명 감동적일 거예요.

83. <sup>ふゆ</sup>冬の<sup>たの</sup>楽しみ<sup>おんせん</sup>は, <sup>おんせん</sup>スキー<sup>し</sup>やスノー<sup>し</sup>ボード<sup>し</sup>, <sup>おんせん</sup>そして温泉<sup>し</sup>です。温泉, <sup>し</sup>知<sup>し</sup>っています<sup>し</sup>か?

겨울의 즐거움은 스키와 스노보드, 그리고 온천이에요. 온천, 알고 계세요?

84. <sup>じめん</sup>地面<sup>した</sup>の下<sup>で</sup>から<sup>ゆ</sup>出て<sup>ゆ</sup>くる<sup>ゆ</sup>, <sup>ゆ</sup>あたたかい<sup>ゆ</sup>お湯<sup>ゆ</sup>の<sup>ゆ</sup>こと<sup>ゆ</sup>です。

땅속에서 솟아나는 따뜻한 물을 말해요.

85. <sup>さむ</sup>寒い<sup>ふゆ</sup>冬<sup>ゆき</sup>に, <sup>み</sup>雪<sup>おんせん</sup>を見<sup>はい</sup>ながら, <sup>おんせん</sup>あたたかい<sup>はい</sup>温泉<sup>さいこう</sup>に入<sup>さいこう</sup>ります。これは, <sup>さいこう</sup>もう, <sup>さいこう</sup>最高<sup>さいこう</sup>ですよ。

추운 겨울에 눈을 보면서 따뜻한 온천에 들어가요. 이걸 정말 최고예요.

86. <sup>からだ</sup>体<sup>しん</sup>の<sup>しん</sup>芯<sup>しん</sup>から, <sup>ふゆ</sup>ぽかぽか<sup>ふゆ</sup>になります。冬の<sup>た</sup>食べ物<sup>もの</sup>とい<sup>なべ</sup>えば, <sup>なべ</sup>やっぱり“鍋”<sup>なべ</sup>ですね。

몸속까지 뜨끈뜨끈해져요. 겨울 음식이라고 하면 역시 "나베(전골)"죠.

87. <sup>なべ</sup>鍋<sup>ひと</sup>とい<sup>ひと</sup>うのは, <sup>おお</sup>一つ<sup>い</sup>の<sup>い</sup>大きな<sup>い</sup>入れ<sup>い</sup>物<sup>い</sup>に, <sup>い</sup>野菜<sup>い</sup>や<sup>い</sup>お肉<sup>い</sup>を<sup>い</sup>入<sup>い</sup>れて, <sup>い</sup>煮<sup>い</sup>る<sup>い</sup>料<sup>い</sup>理<sup>い</sup>です。

나베라는 건 하나의 큰 냄비에 채소나 고기를 넣고 끓이는 요리예요.

88. <sup>かこ</sup>みんな<sup>た</sup>で<sup>からだ</sup>囲<sup>こころ</sup>んで<sup>こころ</sup>食<sup>こころ</sup>べると, <sup>こころ</sup>体<sup>こころ</sup>も<sup>こころ</sup>心<sup>こころ</sup>も, <sup>こころ</sup>あたたか<sup>こころ</sup>くなります。

다 같이 둘러앉아 먹으면 몸도 마음도 따뜻해져요.

89. <sup>しゅんかしゅうとう</sup>さて, <sup>み</sup>ここ<sup>み</sup>まで, <sup>み</sup>春夏秋冬<sup>み</sup>を見て<sup>み</sup>きまし<sup>み</sup>た<sup>み</sup>が, <sup>み</sup>い<sup>み</sup>かが<sup>み</sup>で<sup>み</sup>した<sup>み</sup>か。

자, 지금까지 봄, 여름, 가을, 겨울을 살펴봤는데 어떠셨나요?

90. <sup>さいご</sup>最後に, <sup>すこ</sup>少し<sup>はなし</sup>だけ, <sup>はなし</sup>まじめ<sup>はなし</sup>な<sup>はなし</sup>話<sup>はなし</sup>を<sup>はなし</sup>さ<sup>はなし</sup>せ<sup>はなし</sup>て<sup>はなし</sup>く<sup>はなし</sup>だ<sup>はなし</sup>さい。

마지막으로 조금만 진지한 이야기를 할게요.

91. <sup>にほんじん</sup>なぜ<sup>きせつ</sup>日本<sup>たいせつ</sup>人は, <sup>きせつ</sup>こんな<sup>たいせつ</sup>にも, <sup>きせつ</sup>季節<sup>たいせつ</sup>を<sup>きせつ</sup>大切<sup>たいせつ</sup>にする<sup>きせつ</sup>ので<sup>きせつ</sup>しょう<sup>きせつ</sup>か。

일본 사람들은 왜 이렇게까지 계절을 소중히 여기는 걸까요?

92. わたし おも きせつ へんか とお いま しゅんかん かん おも  
私が思うに,それは,季節の変化を通して,“今,この瞬間”を感じているからだと思  
います。

제 생각에는 계절의 변화를 통해 "지금, 이 순간"을 느끼고 있기 때문인 것 같아요.

93. さくら ち こうよう なが つづ  
桜は,すぐに散ります。紅葉も,長くは続きません。

벚꽃은 금방 저요. 단풍도 오래가지 않아요.

94. とき み けしき たいせつ  
だからこそ,その時にしか見られない景色を,大切にするんですね。

그렇기 때문에 그때만 볼 수 있는 풍경을 소중히 여기는 거예요.

95. にほん むかし かんが かた ふか  
これは,日本の昔からの考え方とも,深くつながっています。

이건 일본의 옛날부터 이어져 온 사고방식과도 깊이 연결되어 있어요.

96. いま じかん だいじ  
“今しかない時間を,大事にしよう”。

"지금밖에 없는 시간을 소중히 하자."

97. きも きせつ たの ぶんか つく  
そんな気持ちが,季節を楽しむ文化を,作ってきたのかもしれない。

그런 마음이 계절을 즐기는 문화를 만들어 온 건지도 몰라요.

98. みな くに きせつ たの おも  
皆さんの国にも,季節ごとの楽しみが,きっとあると思います。

여러분의 나라에도 계절마다 즐기는 것들이 분명 있을 거예요.

99. おし  
ぜひ,コメントで,教えてくださいね。

꼭 댓글로 알려 주세요.

100. にほん く きかい きせつ き  
そして,もし日本に来る機会があったら,どの季節に来たいですか。

그리고 혹시 일본에 올 기회가 있다면 어느 계절에 오고 싶으세요?

101. さくら はる まつ なつ  
桜の春でしょうか。祭りの夏でしょうか。

벚꽃의 봄일까요? 축제의 여름일까요?

102. こうよう あき ゆき おんせん ふゆ  
紅葉の秋でしょうか。それとも,雪と温泉の冬でしょうか。

단풍의 가을일까요? 아니면 눈과 온천의 겨울일까요?

103. きせつ き にほん みな たの おも  
どの季節に来ても,日本は,きっと,皆さんを楽しませてくれると思います。

어느 계절에 와도 일본은 분명 여러분을 즐겁게 해 줄 거예요.

104. きょう  
はい。今日のエピソードは,ここまでです。

네. 오늘 에피소드는 여기까지예요.

105. にほん しき はなし たの 日本にほんの四季しきの話はなし, 楽しんでたのも◆◆えたでしょうか。

일본의 사계절 이야기, 재미있게 들으셨나요?

---

106. きせつ か にほん あたら たの 季節きせつが変かわるたのたびに, 日本にほんには, 新あたらしい楽しみたのがあります。

계절이 바뀔 때마다 일본에는 새로운 즐거움이 있어요.

---

107. ぜひ, じぶん き い きせつ み き ぜひ, 自分じぶんのお気きに入いりの季節きせつを, 見みつけきにき来きてくださいね。

꼭 자신이 좋아하는 계절을 찾으러 와 주세요.

---

108. きょう さいご き 今朝きょうも, 最さい後ごまで聞きいてくきれて, ありがとうございました。

오늘도 끝까지 들어 주셔서 감사합니다.

---

109. っぎ きせつ はなし あ それでは, 又っぎ次きせつの季節はなしの話あで, お会あいしましょう。

그럼 다음 계절 이야기에서 또 만나요.

---